

防災かわら版

2015.7
第4号

発行元
佐伯市
防災危機
管理課

屋内放送設備の導入を計画しています

災害時の情報伝達手段の強化や防災スピーカーの難聴対策を目的として、平成29年度をめどに屋内放送設備の導入を検討しています。

この放送設備の導入により、これまで防災スピーカーで放送されていた内容が屋内でも聞くことができるので、放送が聞き取りやすくなります。また、旧町村で整備をしていた防災無線の戸別受信機や告知端末の代替設備となります。

この放送設備はFM波やケーブルテレビ網を利用し緊急

放送を受信することができ、ケーブルテレビの配線に接続することで、有線・無線の両方で受信が可能となります。

放送設備の機能

○緊急放送は放送設備の電源が自動起動して音声の流れます。

○有線断線時には、無線受信に自動的に切り替わります。(FM波の不感地域を除く)

○通常は家庭内電源を接続、停電時には電源が電池に自動的に切り替わります。

○録音機能により、聞き直しが可能です。

○有線接続により地区放送が可能になります。

※詳しい内容が決定しましたら再度お知らせいたします。

佐伯市一斉の避難訓練を行います

住民の災害に対する平時からの備えの充実を図ることと、防災意識を高めることを目的として、地域避難訓練を行います。

地域の実情に応じて、風水害や地震・津波等の災害を各地区で想定し避難訓練が行われます。

実施日

平成27年11月8日(日)

実施内容

午前9時から9時30分

の間に吹鳴するサイレンを合図に地区ごとに避難訓練が行われますので、皆さんのご参加をお願いします。

なお、各種行事の開催につきましても、日程が重ならないようご配慮をお願いします。

防災講演会の開催について

地域や家庭での心構えと防災意識の向上を図るために、防災講演会を開催します。

講演の内容は「東日本大震災から学ぶ避難所の現状と支援のあり方」と題して、貴重な体験を話していただきますので、ご来場下さい。

■期日

平成27年7月26日(日)

■公演時間

14時～16時

■場所

佐伯市保健福祉総合セン

ター一和楽 大研修室

■講師

もりおか女性センター

センター長 田端八重子氏

■入場料

無料

※手話通訳・要約筆記付き

西上浦、八幡地区で防 災フェスタ開催

平成27年6月14日（日）の午前中に西上浦地区、午後に八幡地区で「防災フェスタ」が各地区の自治会と防災士会との共同で開催されました。

両地区とも「地震体験車」「災害映像の放映」「災害写真パネルの展示」「非常食の試食」のブースを設けるとともに、西上浦地区は、「簡易担架の作成」「段ボールトイレの作成」を、八幡地区では「紙芝居」「救急救命講習」を実施しました。両地区併せて153名の住民が参加し、震度7の地震や非常時に起こる様々な事象を体験しました。地震体験では、体験した人の話を聞き駆けつけたという方もいました。この



救急救命講習の様子



段ボールトイレ作成の様子

催しは4月に開催した弥生・本匠・直川・宇目地区に続き行われたイベントで、共催した防災士会では、今後も自治会と連携し他の地区でも開催していきたいとのことでした。

○ 風の強さと想定される被害

平均風速(毎秒)	想定される被害
10m以上～15m未満 (やや強い風)	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。
15m以上～20m未満 (強い風)	風に向かって歩けない。転倒する人が出る。
20m以上～25m未満 (非常に強い風(暴風))	しっかりと身体を確保しないと転倒する。
25m以上～30m未満 (非常に強い風(暴風))	立ってられない。ブロック塀が倒れたり、樹木が根こそぎ倒れ始める。
30m以上～ (猛烈な風)	屋根が飛ばされる木造住宅が壊れる。

防災豆知識(風水害編)
台風や豪雨は、地震と違い、発生規模や時期が分かります。日頃から天気予報に注意し、最新の情報を収集するようにしましょう。また、被害を最小限に食い止めるためには、被害が出始めて避難するのではなく、早めに避難しておくことが大切です。右側の表は風の強さと雨の強さによって想定される被害をまとめたものです。参考にして下さい。

○ 雨の強さと想定される被害

1時間の雨量(mm)	想定される被害
10mm以上～20mm未満 (やや強い雨)	地面からの跳ね返りで足下がぬれる。雨音で声がよく聞こえない。
20mm以上～30mm未満 (強い雨)	傘を差していてもぬれる。側溝や下水、小さな川があふれる。
30mm以上～50mm未満 (激しい雨)	バケツをひっくり返したような雨で、道路が川のようなになる。山崩れ、がけ崩れが起きやすくなる。
50mm以上～80mm未満 (非常に激しい雨)	滝のような雨で、車の運転は危険。地下に雨水が流れ込む。土石流が起こりやすい
80mm以上～ (猛烈な雨)	大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

止めるためには、被害が出始めて避難するのではなく、早めに避難しておくことが大切です。右側の表は風の強さと雨の強さによって想定される被害をまとめたものです。参考にして下さい。